

2021/2/23-2

(うとQ世話し 続 大いなる不安? 語学篇)

先の記事の続きで、ネパールから子供達が大量してくるとなると、子供達をどの学校や保育園に通わせるかを考えなくてはなりません。

基準は簡単で、英語を話せるようになる学校か、日本語を話せるようになる学校か、ネパール語だけ話せればすむ学校なのか? という選択肢です。後はそのバリエーションの組み合わせですが、

何よりもまず之が第一番目の優先事項です。

何せ放っておいたら、ヒマラヤの雑草さん達は、伸び放題の育ちっばなしで、風に吹かれてその種子が何処に飛んでいくか分かりません。

なので、ある程度は我が国の事情を知っている自分が、仮初めの道筋くらいは付けてやらないと、いけない気もしてきました。

そこで、どの学校に通うにせよ、このお店の従業員、最低限の共通語である英語だけでもこちらで教えないといけないかなあと思い出しました。

で、その折り、どういう教育法が最適だろうかと考えていたところ、当のネパチャイルドとは直接関係の無い、我が国の子供達への英語教育について、偶然にも、ある仮説が浮かびました。

以前、弊社語学教室の案内で

「英語は覚えるものではなく、考えて作り出す(創造する)ものだ」

と書いて、いい加減なでたらめを言うな、と可成の響感を買いましたが、それについてもう少し分かり易い説明方法が浮かんだのです。

曰く

「漢字は、その文字の組み合わせによって、辞書にない造語をいくらでも作り出せ、相手はその漢字文字の組み合わせを見ればおおよそ本人が何を言いたいかの察しがつく。例えば流水は有名だが、押し流される川の岩を「流岩」と書いて、辞書になくとも多くの人が何の事か分るだろう」

「英語も同じで、動詞+前置詞の組み合わせ方次第で、その場に合わせた造語がどんどん出来る。いちいち idiom (成句) として覚える必要は無い。組み合わせ方はその場の雰囲気自由。余り考えなくても良い。但しイメージだけはしっかり頭に入れておく事。

例えば

前置詞のイメージは

At はピンポイント。On は上と言うより積み重ねる、連続するイメージ。Along は何かに沿ってで、off はぱっと離れる感じに対して away は徐々に離れていくイメージとか。Up はテンパると言うイメージで、out は出かけると言うより居なくなるイメージ。

これらを動詞と組み合わせると

Look at は、そのポイントを見る。

Go on は続けて先に進む。

Go along は道に沿ってで「道なりに」

Take off はぱっと取るだし、take away はゆっくり離すように取り去る。

Fill up なら記載することをテンパるで「記入し上げる」だし

Get out だと「居なくなれ=出て行け」となるとかです。

後はこの前置詞の持つイメージを任意の動詞にどんどんくっつけて喋れば、一丁できあがりです(前置詞をイラストにしておくともっと分かり易くなります)

なので、英語は考えて(その場の状況に応じて)作り出すものだと申し上げた次第だったのです。

今まで説明不足で、大変申し訳ありませんでした。